

# 1. COVID-19 に対する胸部CT検査指針の策定

氏田万寿夫 立川綜合病院放射線科

日本放射線科専門医会・医会 (以下, JCR) では, わが国で新型コロナウイルス感染症 (以下, COVID-19) の拡大の兆しを見せ始めた2020年2月から, この未知の感染症に関する知見や放射線科診療に関連する提言をホームページ上で発信してきた。その頃, 立て続けに発表された多くの論文によって, COVID-19 の特徴的画像所見 (特にCT所見) が確立しつつあった。その中で, 2月19日に *Radiology* 誌に COVID-19 の診断でCTがPCR検査より感度が高いという論文<sup>1)</sup>が登場したことで, 「COVID-19のスクリーニングにCTが有用」「COVID-19疑いにはCT」との社会通念が生まれることが危惧された。なぜなら, COVID-19の診断にCTの感度は高いが特異性に乏しいこと, CTで異常を認めないCOVID-19患者も存在することに加え, CT検査の適応を無為に広げることは, 通常の放射線診療に支障を来すだけでなく, より重要な点として感染拡大の一因になりうると考えたからである。

このような背景から, JCR, 日本医学放射線学会および感染症関連の2学会 (日本感染症学会, 日本環境感染症学会) との合同による「COVID-19に対する胸部CT検査の指針 (Ver.1.0)」を策定した。作成は, 長崎大学の芦澤和人先生 (JCR) が作成した原案を基に, JCRと各学会の専門家の計9名により3月初旬からリモートで議論を重ね, 4月23日に指針を発表した。

この指針発表前の3月11日には, 米国放射線学会 (ACR) から COVID-19 が疑われる患者に対する画像診断ガイドライ

ンが公表されたが, 無症状の患者への画像検査の適応はないと同様の声明を発している<sup>2)</sup>。

以下に, 本指針の全文を記載するが, ここに記載されているように, 本指針は地域の感染状況や各施設のCTの活用状況などにより, 柔軟に運用することが望まれる。また今後, 感染状況などに応じて改訂する可能性もありうる。

## COVID-19 に対する胸部CT検査の指針 (Ver.1.0)

### はじめに

胸部CT検査の適応に関しては, ①疾患に対するCTの診断能, ②検査室の感染拡散の問題, ③X線被ばくのデ

メリット, ④地域の感染状況の4点を考慮して総合的に判断することが重要である。なお, 国内のCOVID-19の状況は刻々と変化しており, 本指針は, 地域の感染状況や各施設のCTの活用状況により, 柔軟に運用することが望まれる。

### Q1. CT検査における注意点は?

#### A1-1. CT検査室での感染対策が必須である。

患者には必ずサージカルマスクを着用させる。医療スタッフはアイシールドつきサージカルマスク (ゴーグル+サージカルマスクでも可), キャップ, 長袖ガウン, 手袋を着用する (図1)。濃厚接触が想定される場合 (造影剤の使用や介助が必要な場合など) はN95マスクの使用も検討する。施行後は, 次の患者

新型コロナウイルス感染症患者の病室/診察室/検査室等		
対象	状況	必要な個人防護具 (PPE)
スタッフ	挿管 ないしは 準じる医療行為	【インナー】ゴーグル, N95マスク, カバーオール, 1重目手袋 (つなぎ目ガムテープ接着), シューカバー 【アウトター】メディカルキャップ, フェイスシールド, ガウン, 2重目手袋 (つなぎ目ガムテープ接着)
スタッフ	大量飛沫発生あり 喉頭視察 鼻咽頭検査等	アイシールドつきサージカルマスク, カップ, 長袖ガウン, 手袋
スタッフ	日常的な 医療行為のみ	アイシールドつきサージカルマスク, カップ, 長袖ガウン, 手袋
スタッフ 患者家族	検温等 面会のみ	ゴーグルマスク, 長袖ガウン, 手袋
患者	常時	ゴーグルマスク

図1 長崎大学病院感染制御センターのCOVID-19対応マニュアルより引用